市民平和集会＆パレード 250人が参加　8月9日（日）

賛同団体・個人から11人が、リレートーク

パレードに飛び入り参加も

安倍政権が成立を目指す安全保障関連法案に反対する集会（えびな・九条の会主催）が8月9日（日）、海老名中央公園で行われ、二五〇名の人たちが海老名から反対の声を上げようと集まりました。日曜の午後とあって買い物客や公園に遊びに来た人などでにぎあう中で始まりました。

下山房雄（えびな・九条の会）会長から市民平和集会を行うことになった経過と安倍暴走政治をストップさせようとの主催者挨拶の後、各市民団体の11人の方からリレートークが行われ「若者を再び戦場におくるな」「中学校の教科書採択で戦争を賛美する教科書が使われている本当に危険」「憲法違反の戦争法案を許すな」「社会保障が減らされる分戦争にまわされる」などさまざまな角度から訴えがありました。集会の最後に甘利幹事から力強く集会アピールを提案し、大きな拍手で採択されました。

その後、海老名駅周辺の目抜き通りのパレードにうつり、「戦争法案ぜったい反対」「戦争法案今すぐ廃案」「戦争反対、9条守れ」のシュプレヒコールを繰り返し唱和し市民に大きくアピールすることができました。

パレードの途中飛び入りで参加したり、マンションの窓から手を振ってくれたりと集会が盛り上がりました。

集会に参加した人は「こんなに大勢の人が集まるとは思わなかった来てよかった」「海老名でこんな集会ができるなんて驚いている」などの感想が寄せられました。

（松本正幸）

※関連記事
別紙「市民平和集会特集」

永遠のゼロ＝平和映画？戦争映画？

海老名市主催の平和映画会ということで、8月15日文化会館で百田尚樹原作の映画「永遠のゼロ」を観た。自民党の勉強会で「沖縄二紙を潰せ」と言い、「ホントは朝日と東京を潰したい」との関連発言を後にしたような安倍晋三のオトモダチ極右作家原作の映画が平和映画であるはずが無いとの先入見で観た。結果はやや複雑だ。

上映に先だってまず企画実行委員役を務めた中学生15名の「平和が大切、戦争はあってはならない」といった感想が平和メッセージとして次々に述べられた。生命が大事、家族が大事との主人公（ゼロ戦操縦名手）の生きざまを描く場面があるので、そういう発言が生まれる点では、平和映画とも言える。

しかし今、中近東やアフリカなどで日々のように、欧米でもときに起こっているイスラム過激派の自爆テロがヨーロッパでカミカゼと呼ばれているように、第二次大戦時の特攻隊は、狂信的国家主義のもとに青年を死に追いやった行為である。映画の中では「特攻隊の攻撃目標は大量殺戮を行う空母であるからテロではない」との台詞が言われ、終りの場面は特攻隊志願に志を変えた主人公の米軍空母へのゼロ戦自爆急降下突入だ。そもそもアジア太平洋戦争の本質が、朝鮮植民地化に続く中国アジア侵略加害の戦争、それを阻止しようとする米英等の経済制裁に対する報復戦争だという大状況を前提せずに、単に日米の海空戦闘場面を描く。やはり戦争映画だ。

（下山房雄　国分南やまに平在住）

えびな・九条の会

会報103号
事務局
〒243-0426
海老名市門沢橋2-16-1
TEL/FAX 046(238)0892

現在の会員数
230名
15年国会請願署名数
144筆
カンパ随時受付
15年度累計
35人 35,860円
郵便振込先
（記号番号：
00200-4 60906
加入者　えびな・九条の会 ）

7/24 駅頭宣伝活動
16:00～17:00
参加者10名（世話人8名）集会ビラ240枚
獲得署名31筆

カンパありがとうございます

左記の方にカンパをいただきました。心からお礼申し上げます。（敬称略）

依田郁子　田中俊勝　山崎久美

教科書採択

西田　ひろみ

24日、２０１６年度から２０１９年度の４年間使用する、市内中学校教科書の採択が教育委員会で行われ、傍聴した。

安倍政権下での、権力による教育への介入が始まっているなかで、海老名市長が教育再生首長会議に参加していること、横浜市や藤沢市が「育鵬社」の歴史教科書を使用していること、また、６月29日～７月４日「中学校教科書展示会」の参加者には教科書採択教育委員会の案内が郵送されたことなどで、海老名市ではどのような教科書が採択されるか？市民の関心も高まり、51人という傍聴者数となり、整理券の配布となった。

教科書採択に当たっての事前準備として、全中学校６校に１週間ずつ、対象教科書（教科用図書…国語の書写、社会の地図は教科とは別に採択される）が回覧され、生徒の発達段階に対応しているか？指導要領に準じているか？など10～11のチェック項目で教育現場の声を反映するような方法がとられ、それらの意見を「海老名市教科用図書採択資料作成委員会」で取りまとめ、報告書を作成した。また、各教育委員には、事前に対象教科書を回覧した。

会議では、教育委員長の進行で、種目ごとに「海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書」を基に、その委員長からの説明、各委員の質疑応答、意見の陳述で採択となった。地理的分野は従来から使用の「帝国書院」に全５票の賛成で採択された。いよいよ歴史的分野、３票を獲得した帝国書院が採択された時は、会場はホッとした空気となった。現在使われている「東京書籍」に１票、「教育図書」に１票、「育鵬社」「自由社」は０票だった。「史実に忠実であること、多角的に捉えることができる資料、歴史の大きな流れを理解できること」が委員会の採択の観点だった。公民的分野は「教育図書」２票で、現在使われている「東京書籍」３票が採択された。「育鵬社」「自由社」は０票だった。

採択を５人の教育委員することへの不安の声が参加者から上がっていた。

現在の教育委員は常識のある方々で、政治的中立は保たれ、現場の声が反映した採択結果になったと思う。しかし、改正地方教育行政法により２０１５年４月から教育委員と教育長は首長に任命権があり（議会は承認権）、教育委員長は教育委員の互選から、教育長の兼任となった。つまり、首長の意向に沿った教育委員の人選になりがちで、首長・政権が替るごとに、教育方針・教科書が変ってしまう可能性がある。戦前の教育のように、「国家の要請に沿った国民の育成」にならないか？市民とともに今後とも教育委員会の方向性に注視していきたい。

『学徒出陣　自死した兄よ　～弟が語るあの時代～』

「市民発・平和の集い」実行委員会事務局
三谷裕美子

7月11日(土)、海老名市文化会館120サロンにおいて、市民発・平和の会主催第9回「戦争体験を聞いて平和について考えよう」を行った。語り部は、横浜市在住の寺尾絢彦さん。今回の寺尾さんには、直接の戦争体験ではなく、召集前に自死した長兄について、また、長兄の生きた20年間、その時代背景、秘密にしなければならなかった兄の自死の事を語って頂いた。

寺尾さんの長兄薫治さんは、寺尾さんの14歳上で大正12年生まれ。私の父と同じ関東大震災の年に生まれた。生きていれば92歳になる。6歳で満州事変、12歳で日中戦争が始まる。1941年12月8日、18歳の時に日本はアメリカに開戦を布告。幼少期から青春期まで戦争に包まれて生きた。学生時代には、音楽、絵画をこよなく愛し、生きていたらどんな芸術家になったろうかと思われる豊かな才能を持った方だった。19歳で静岡の国民学校の代用教員として子どもたちと過ごし、かつての教え子たちに外国の音楽を聞かせたり、「軍靴の音が大嫌いだ」といつも話したりしていたということだ。軍部への批判、平和への希求は、大きなものだったと察せられる。学徒出陣で出征直前に薬を飲んで自死された。

人を殺し、殺される戦争に何の意味があるのか、自由を奪われ、生き難くなった薫治さんは、戦争に行くことを死をもって拒否した。母は、息子を人殺しにしなくて良かったと自分を納得させていたと言う。

日本は、その当時、何という暗黒の時代だったろう。しかし、2015年の今を生きる私たちは、「戦争に向かうような暗黒の時代は、二度とごめんだ」と声を高らかに叫ばなければ、危ない時代に突入しそうだ。憲法を捻じ曲げようとしている日本の総理大臣に「あなたの向かう方向は間違っている」と、裸の王様の臣下たちにも「目を覚ませ」と、憲法が目指す通りの政治が行われるようになるまで言い続けよう。世界に誇る日本の憲法九条が、永劫に生き活きと生かされ続けることを目指して。

講演後の参加者のアンケートに「戦争は、どんな理由があろうと何としても止めなければならない」と大勢の方が記載した。寺尾さんからのメッセージをしっかりと受け止められたと感じた。

事務局から

(E-mail aooyama@m4.dion.ne.jp)

９月の世話人会議は９月２５日(金) 13:30～15:30
海老名市文化会館２５４学習室（2F)

午後4時頃から、駅頭宣伝・署名行動を行います。
(小田急改札前ペデストリアンデッキ上)